

令和7年度 第4回中心市街地における公共施設の在り方に関する検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年12月15日（月）13時25分から14時10分まで

2 場 所 やまゆり館 会議室

3 次 第 1. 開会

2. あいさつ

3. 説明事項

（1）検討委員会の方向性（案）について

（2）ワークショップの報告について

（3）住民説明会の報告について

4. その他

4 出席者

《委員》

No	検討委員	氏名	所属等
1	学識経験者	大澤 義明	麗澤大学教授 筑波大学名誉教授
2		笹尾 知世	麗澤大学准教授
3	各種関連団体の委員	櫻井 健一	文教厚生委員会委員長
4		大橋 秀昭	区長会副会長
5		塚田 愛子	区長会
6		坂本 一衛	図書館協議会委員長
7		羽成 英明	保健福祉部長
8		仲澤 勤	教育部長

《事務局》

所属	氏名	職名
総務企画部	樽見 大輔	企画監
経営企画課	栗原 達也	係長
	鈴木 幸介	主任

5 会議内容

議長：はじめに、本日の第4回検討委員会につきまして、4名の方より傍聴の申し出がございますので、これを許可することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

▼協議議事

議長：それでは協議事項に入ります。質疑に関しては説明終了後、一括で行いたいと思います。(1)「検討委員会の方向性(案)」について、事務局より説明願います。

事務局：－資料に基づき説明－

議長：次に(2)「ワークショップの報告」について事務局より説明願います。

事務局：－資料に基づき説明－

議長：次に(3)「住民説明会の報告」について事務局より説明願います。

事務局：－資料に基づき説明－

事務局：ありがとうございます。今の説明についてのご意見をこれからいただきたいと思います。今日の目標というか、今日の会議の狙いというのは、方向性の素案です。これを認めていただければという形で思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

櫻井委員：確認ですが、先ほど10億円の補助金の話がございましたが、この補助金を使える要件に合わせるようなことを提言すれば使えればということなのか、もしくはこのまま進めれば補助金を使えるということなのか。

事務局：図書機能ならこの補助が使える、図書館となると使えなくなってしまう。
今の提案だとこの財源が使える可能性があります。申請して認められればとはなりますが。

櫻井委員：5 ページに載せていただいている親水公園についてですが、赤の点線のところが令和 18 年で新施設と書いてある赤の実線のが令和 8 年なのか、時系列が知りたい。

事務局：令和 8 年からやりたいのが黄色の点線のところに図書機能を持てきたいのが令和 8 年度の希望。赤に関しては令和 18 年度以降を予定しておりますが、先ほど市民からの意見もあったように、今の施設をそのまま使いたいという意見がありましたので、老朽化と併せて赤いところにまとめると考えています。

塚田委員：下稲吉コミュニティセンターと大塚ふれあい公園はそのまま令和 18 年までは使えるということですね。

事務局：その通りです。

櫻井委員：この補助金の条件というのは、黄色の実線の施設をやるにあたって検討している補助金という理解でよろしいか。

事務局：その通りです。

坂本委員：市民意見書の一番最後のところなんです、3 ページの提言 4 のところで、わからないので教えてほしいのですが、提言は子供図書館が良いのではと推奨するとのこと、②のところですが、大人向けの図書はあじさい館の分館程度とあるが、分館程度とはどのような意味合いなのか。

仲澤委員：あじさい館の分館というのはいわゆる重要なコミュニティセンターにある図書館の分館を指すんだと思います。その施設だと 2 万冊ぐらい蔵書があったと思いますが、その程度のものかなと思います。

坂本委員：あじさい館の分館というのは千代田コミュニティセンターにある図書館分館程度ということか。

仲澤委員：その規模だというふうに読み取れると思います。

櫻井委員：コンセプトのところですが、つながりの希薄な原因の一つに電子機器の使用する時間が多くなって、今ワンダーグーの後にできた市民窓口センターのところで開庁して子供たちが勉強できるスペースができています。そこはすごく土日の利用が多くなって子供たちも使用している。こちらにもいれていただきたいと思うのと同時に、デジタルデトックスができるようなコンセプトもいれていただきたい。そうすると人と人とが目を合わせながら話ができたり、自然との触れ合いとして土いじり、当市は果樹園が盛んだったので、次世代に繋がるような事もいれていただきたい。あと、日曜日など賑わいができたときにキッチンカーが来たりも考えられるが、発電機を使うと苦情も考えられることも考え、スペースを開放する場所とか、色々取組していただけるといいかなと思う。

事務局：38ページの「目で見える資料」なんですけど、子供たちのワークショップのものを出したもので非常にわかりやすくなっています。人と場所、交流、勉強、自習など、色々ありますので、この若い方たちの意見を踏まえた意見としまして、そういう意見を取り込んでいきたいと思っておりますので、その辺は反映されてくると思っております。

塚田委員：計画立てて何回もやってみんなで検討した結果、こうなってるんだからいいだろうとおもいますけどね。

議長：笹尾委員は何かありますか。ワークショップに参加した印象とか。

笹尾委員：思った以上に参加者高校生たちが意見を述べていらっしゃって、まずどういう意見が出てくるのか、高校生たちのあまり想像できてなかったんです。話を聞くと他世代との交流に対してもすごく意欲が高いんだなっていうのを結構驚きを持って感じたんですけども、いろいろなその趣味でつながる関係性みたいなのを地域で作りたいたいっていう。気持ちが結構たくさん出ている。例えば音楽が好きな人同士でいろんな世代の人と交流しながら、楽譜とかを借りて、演奏会をしたりとか、練習を教え合ったりとか、ピザ窯をこう作って、料理を作る人たちとして集まったとか、趣味でつながるコミュニティ作りっていうものにすごく関心が高いということがわかったので、そういった活動をしやすい拠点になると、本当にこの地域にとっても若い子たちが集まってこれるスペースになるんじゃないかなというふうに思いましたので、ぜひせっかく

ワークショップをやったので、その結果はその設計の方々に渡して、いい設計にしていだけるといいのかなと思います。

櫻井委員：下稲吉コミュニティセンターの老朽化については何か方向性があるのですか。

事務局：今年の予算ヒアリングでも出てますが、不具合の箇所は直していく予定。長寿命化とは別で、使える部分は使っていく。

櫻井委員：やまゆり館は日曜日は使えるようになると思うが会議室が下稲吉コミュニティセンターに比べると少ない。会議に使いたいという声も前からある。そのような設計の計画はあるか。

羽成委員：この会議室は2つに分かれ、2か所として使える。日曜日にも使えます。

議長：それでは協議会として方向性、素案について、了解を得たということでよろしいでしょうか。

事務局：今出た意見を踏まえまして、今後正式に市長に提案する内容について次回の会議で諮りまして、それをもって検討委員会を閉めさせていただきます。

議長：以上で本委員会は終了します。

司会：第5回の委員会は令和8年3月頃の開催を予定しています。

以上